

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	基礎医学演習Ⅱ			学科名	理学療法学科	講師名	理学療法学科教員
時間数	30時間					実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次 2 年次 3 年次			前期 後期 通期		
目的・ねらい		解剖学や生理学といった医学の基盤分野を学習することで、人体の構造や機能・メカニズムについて復習する。					
授業全体の 内容の概要		基礎医学全般について系統的に復習を行う。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		病気の原因や発症から治癒への経過を理解する。 基礎医学に関する理学療法士国家試験の共通問題に解答できる水準を到達目標にする。					
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	解剖学①				教室
	2	講義	解剖学②				教室
	3	講義	解剖学③				教室
	4	講義	神経系②				教室
	5	講義	生理学①				教室
	6	講義	生理学②				教室
	7	講義	生理学③				教室
	8	講義	病理学①				教室
	9	講義	病理学②				教室
	10	講義	運動学①				教室
	11	講義	運動学②				教室
	12	講義	運動学③				教室
	13	講義	人間発達学・小児科学①				教室
	14	講義	人間発達学・小児科学②				教室
	15	講義	人間発達学・小児科学③				教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ☒ ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		特に指定しない。					
評価方法		本講義においてはすべての出席を必須とする。講義終了後に終講試験として学力評価試験を実施する。 終講試験の得点を50%、出席率を50%（合計100%）として評定する。 学力評価試験において140/280点以上を1 回以上獲得できた者に対して単位を認定する。					

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法演習Ⅰ			学科名	理学療法学科	講師名	理学療法学科教員
時間数	45時間					実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	3年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		専門科目の総復習を実施する。					
授業全体の 内容の概要		国家試験出題内容に関する問題演習を実施し，内容の理解と暗記を進める。また，必要に応じて質疑応答形式を施行する。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		国家試験に頻出するキーワードの理解を深める。 国家試験合格のための学習方法を会得とする。					
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	生体力学①				教室
	2	講義	生体力学②				教室
	3	講義	生体力学③				教室
	4	講義	運動療法①				教室
	5	講義	運動療法②				教室
	6	講義	運動療法③				教室
	7	講義	運動療法④				教室
	8	講義	運動療法⑤				教室
	9	講義	物理療法①				教室
	10	講義	物理療法②				教室
	11	講義	物理療法③				教室
	12	講義	物理療法④				教室
	13	講義	物理療法⑤				教室
	14	講義	理学療法評価法①				教室
	15	講義	理学療法評価法②				教室
	16	講義	理学療法評価法③				教室
	17	講義	理学療法評価法④				教室
	18	講義	理学療法評価法⑤				教室
19	講義	内部疾患①				教室	

20	講義	内部疾患②	教室
----	----	-------	----

21	講義	内部疾患③	教室
22	講義	内部疾患④	教室
23	講義	内部疾患⑤	教室
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有) ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		特に指定しない。	
評価方法		本講義においてはすべての出席を必須とする。講義終了後に終講試験として学力評価試験を実施する。終講試験の得点を50%、出席率を50%（合計100%）として評定する。学力評価試験（5回実施）において140/280点以上を1回以上獲得できた者に対して単位を認定する。	

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法演習Ⅱ		学科名	理学療法学科	講師名	理学療法学科教員
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	3 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		専門科目の総復習を実施する。				
授業全体の 内容の概要		国家試験出題内容に関する問題演習を実施し、内容の理解と暗記を進める。また、必要に応じて質疑応答形式を施行する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		国家試験に頻出するキーワードの理解を深める。 国家試験合格のための学習方法を会得とする。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	理学療法概論①			教室
	2	講義	理学療法概論②			教室
	3	講義	理学療法概論③			教室
	4	講義	理学療法概論④			教室
	5	講義	理学療法概論⑤			教室
	6	講義	補装具療法①			教室
	7	講義	補装具療法②			教室
	8	講義	補装具療法③			教室
	9	講義	補装具療法④			教室
	10	講義	補装具療法⑤			教室
	11	講義	補装具療法⑥			教室
	12	講義	小児科学①			教室
	13	講義	小児科学②			教室
	14	講義	小児科学③			教室
	15	講義	小児科学④			教室
	16	講義	小児科学⑤			教室
	17	講義	整形外科科学①			教室
	18	講義	整形外科科学②			教室
	19	講義	整形外科科学③			教室
	20	講義	整形外科科学④			教室
	21	講義	整形外科科学⑤			教室

22	講義	整形外科学⑥	教室
23	講義	整形外科学⑦	教室

指導計画				
			原則、筆記試験の実施 ☒ 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		特に指定しない。		
評価方法		本講義においてはすべての出席を必須とする。講義終了後に終講試験として学力評価試験を実施する。終講試験の得点を50%、出席率を50%（合計100%）として評定する。学力評価試験（5回実施）において140/280点以上を1回以上獲得できた者に対して単位を認定する。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法演習Ⅲ			学科名	理学療法学科	講師名	理学療法学科教員
時間数	45時間					実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	3 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		専門科目の総復習を実施する。					
授業全体の 内容の概要		国家試験出題内容に関する問題演習を実施し，内容の理解と暗記を進める。また，必要に応じて質疑応答形式を施行する。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		国家試験に頻出するキーワードの理解を深める。 国家試験合格のための学習方法を会得とする。					
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	脳血管障害①				教室
	2	講義	脳血管障害②				教室
	3	講義	脳血管障害③				教室
	4	講義	脳血管障害④				教室
	5	講義	脳血管障害⑤				教室
	6	講義	脳血管障害⑥				教室
	7	講義	脳血管障害⑦				教室
	8	講義	神経・筋障害①				教室
	9	講義	神経・筋障害②				教室
	10	講義	神経・筋障害③				教室
	11	講義	神経・筋障害④				教室
	12	講義	神経・筋障害⑤				教室
	13	講義	脊髄損傷①				教室
	14	講義	脊髄損傷②				教室
	15	講義	脊髄損傷③				教室
	16	講義	脊髄損傷④				教室
	17	講義	脊髄損傷⑤				教室
	18	講義	脊髄損傷⑥				教室
	19	講義	脊髄損傷⑦				教室
	20	講義	ADL①				教室
	21	講義	ADL②				教室

22	講義	ADL③	教室
23	講義	ADL④	教室

指導計画				
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 ☒ ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。		
テキスト・参考図書等		特に指定しない。		
評価方法		本講義においてはすべての出席を必須とする。講義終了後に終講試験として学力評価試験を実施する。終講試験の得点を50%、出席率を50%（合計100%）として評定する。学力評価試験（5回実施）において140/280点以上を1回以上獲得できた者に対して単位を認定する。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法研究法			学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	15時間					実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次 2 年次 3年次			前期 後期 通期		
目的・ねらい		研究論文の読み方，検索方法，引用方法を学ぶ。 学会発表の方法・手順・運営について概要を学ぶ。					
授業全体の 内容の概要		臨床実習での経験をもとに症例報告資料の作成と発表準備・運営を行う。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1) 研究論文が読めるようになる。 2) 症例報告のためのプレゼンテーション資料をPowerPointで作成できる。 3) 症例報告を学内にて発表できる。					
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	研究論文の読み方，検索方法，引用方法について				教室
	2	講義	学会発表の方法・手順について				教室
	3	講義	症例報告のためのプレゼンテーション資料の作成①				教室
	4	講義	症例報告のためのプレゼンテーション資料の作成②				教室
	5	演習	症例報告会の運営・発表・聴講①				教室
	6	演習	症例報告会の運営・発表・聴講②				教室
	7	演習	症例報告会の運営・発表・聴講③				教室
	8	演習	症例報告会の運営・発表・聴講④				教室
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無				
テキスト・参考図書等		適宜資料を配布する。					
評価方法		出席率、症例報告のためのプレゼンテーション資料をもとに評定する。					

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床実習Ⅲ・Ⅳ （総合臨床実習）		学科名	理学療法学科	講師名	理学療法学科教員
時間数	720時間 （Ⅲ：360時間・Ⅳ360時間）				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		3年次			前期	後期 通期
目的・ねらい		専門学校で学んだ理学療法の基礎・専門・特殊分野の知識と技術、臨床実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識と技術をもとに理学療法実習を体験する。				
授業全体の 内容の概要		理学療法評価項目（疼痛検査、関節可動域検査、筋力検査、形態計測、片麻痺機能検査、高次脳機能検査など）および治療項目（理学療法、運動器障害、中枢神経系障害）の見学、協力参加、実施体験を行う。				
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		対象症例を通じて、理学療法の一連の過程（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療）を経験する。 対象症例を通じて、理学療法の記録や報告が適切に遂行できる。 対象症例を通じて、医師、看護師、作業療法士等の関連職種の方々と良好な人間関係を形成する。 臨床実習を通じて、医療人・社会人としての人間性を高める。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	校内ガイダンス			
	2	実習	病院・施設実習 グループA：令和8年3月16日（月）～令和8年5月9日（土）			
	3	実習	病院・施設実習 グループB：令和8年5月25日（月）～令和8年7月18日（土）			
	4	実習	病院・施設実習 グループC：令和8年8月3日（月）～令和8年9月26日（土）			
	5	講義	事後検討会			
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		特に指定しない。				
評価方法		臨床実習先の評価と報告レポートをもとに総合的に判断する。				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床実習Ⅴ （訪問または通所リハ実習）		学科名	理学療法学科	講師名	専任教員
	90時間				実務経験の有無	理学療法士業務
時間数						
学年・学期配当		1 年次	2 年次	3 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステム（特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する。関連専門職の役割を理解することができる。				
授業全体の 内容の概要		実習前の準備段階として講義・グループワークを通し理解を深め、その後実習に臨む				
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		① 通所リハビリテーション利用者（個別、集団）に対する理学療法を理解する。 ② 通所リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験する。 ③ 訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を理解する。 ④ 訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験する。 ⑤ ケアプランの立案過程を理解する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	臨床実習Ⅴ（訪問又は通所リハビリテーション）に向けて			教室
	2	講義	臨床実習Ⅴ（訪問又は通所リハビリテーション）に向けて			教室
	3	講義	地域理学療法って何			教室
	4	講義	地域の特性、社会資源			教室
	5	講義	地域リハビリに関わる職種、住民			教室
	6	講義	多職種連携			教室
	7	講義	活動と参加へのアプローチ			教室
	8	講義	在宅での取り組み			教室
	9	講義	訪問リハビリテーションについて			教室
	10	講義	福祉用具について①			教室
	11	講義	福祉用具について②			教室
	12	演習	グループワーク①			教室
	13	演習	グループワーク②			教室
	14	演習	グループワーク③			教室
	15	演習	グループワーク④			教室
	16	演習	グループワーク⑤			教室
	17	講義	発表			教室
	18	講義	臨床実習手引きについて			教室
	19	講義	臨床実習手引きについて			教室

	20	講義	臨床実習手引きについて	教室
--	----	----	-------------	----

指導計画	21	講義	接遇・マナー①	教室
	22	講義	接遇・マナー②	教室
	23	講義	まとめ	教室
			臨地での実習：45時間	
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等			特に指定しない。	
評価方法			臨床実習先の評価と報告レポートをもとに総合的に判断する。	

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）